

米づくりのくふう 農家の人は、共同でなえづくりをしています。玉井字台に大がた「いくびょうセンター」をつくり、米のしゅるいべつに分けて、なえを育てています。

また、個人でも、冷害にそなえたり、とり入れのじきをかえるなど、なえづくりをくふうしたりしています。

ひりょうは、作物をつくるのにたいせつなものです。科学ひりょうばかり使っていると、土地が悪くなってしまう。そこで、たい肥（牛ごやのしきわらやふんなど）を多く使うなどの工夫をしています。

農家は、きかいを使うようになって、米づくりにかかる時間がみじかくなってきました。田うえは、五月はじめごろにおこなわれま



(田植え機による田植え)



(いくびょうセンターでつくられている苗)